

新制服と体操着のデザイン、校歌の作詞・作曲者、 校章のデザインの補作者が決定しました



令和5年6月19日

3区中学校統合実行委員会 事務局

来年4月の東頸中学校の開校に向け、皆様からご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、5月31日(水)に、3区中学校統合実行委員会第5回全体会議と第5回校名・校歌・校章部会を開催し、以下のとおり決定しましたのでお知らせします。

★新しい制服と体操着のデザインの決定

制服3案、体操着2案のうち、制服は紺色のブレザーと緑色を基調としたデザインのズボン・スカートに、体操着の長袖・長ズボンは紺色に青いラインが入ったデザインに、半袖は紺色のデザインになりました。

なお、決定したデザインは、4ページに記載の2次元コードからご覧いただけます。

★校歌の作詞・作曲者、校章デザインの補作者の決定

(1) 校歌について

【作詞者】 渡邊 浩一 氏

浦川原区在住。国語教師、元大島中学校長。「素人芝居大浦安」の理事長、脚本を手掛ける。

【作曲者】 今成 満 氏

長岡市在住。上越教育大学一期生、前小千谷市立和泉小学校長、現上越教育大学中等音楽教育実地講師。「南魚沼市立八海中学校校歌」など多数の校歌を作曲

公募のあった校歌のキーワードは、校名・校歌・校章部会の中で次のようなキーワードを選考して、作詞者にお渡し、これを基にしながら、作詞を進めていただいています。

① 生徒や学校への思い

<キーワード>

希望、絆、未来、友情胸張り共に進むもの、絆は固き友情の

<キーワードの考察>

仲間を大切にしながら、友情や絆きずなを育み、共に未来を切り開こうと前に進もうとする生徒になってほしい。

② 風景・自然・景観・地域・地名

<キーワード>

雪、菱ヶ岳、保倉川、桜、東頸、白銀、わかば、われらが郷土、豊かな自然

<キーワードの考察>

安塚・浦川原・大島に共通した自然の風景に抱かれながら、豊かな自然と共にたくましく生きる生徒の姿を期待したい

③ 歴史・文化

<キーワード>

歴史、学舎(寄宿舎の初め)、土の文化、雪国、直峰語る古城趾

<キーワードの考察>

雪国の文化を継承するとともに、歴史的要素であったこの地に誇りをもって生きてほしい

(2) 校章デザインの補作について

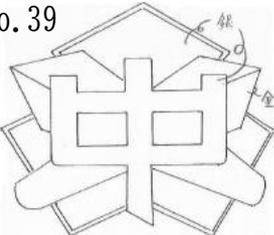
【補作者】 松浦 和美 氏

株式会社U・STYLE 代表取締役。安塚区出身。「よしかわ杜氏の郷」のロゴなど、県内企業や各種イベントのロゴ及びポスター等の作成に数多く関わる。

<部会で選出された校章デザインと補作を依頼する校章デザイン>

依頼先との協議の結果、優先順位上位2点の校章デザイン(太枠)を補作することになりました。

① 既存の校章を組み合わせたデザイン ※ ①…作者の思い ②…選考理由

<p>No. 39</p> 	<p>①各校の校章に想いがあったので、それぞれの校章から一つずつパーツを使ってデザインした。 安塚…後ろの模様 浦川原…万年筆 大島…「中」の文字</p> <p>②各校の校章に想いがあることが感じられ、3校の校章のパーツがバランスよくデザインされている。</p>
<p>No. 42</p> 	<p>①3校の校章を全て組み合わせた。学校が統合して、3校が一緒になるので、どの中学校の校章も残るようにした。</p> <p>②各校の校章に想いがあることが感じられ、3校の校章のパーツがバランスよくデザインされている。</p>

② 新規のデザイン

<p>No. 68</p> 	<p>①菱ヶ岳の麓、新緑の中をイメージさせる3本ラインは、3校の伝統を同時に思わせる。今後、他校と統合となった場合でも、ラインを増やすことによって時代を話題に出せる楽しみと共に、変化を期待させることができる。</p> <p>②新しい学校への想いが感じられるとともに、シンプルなデザインでよい。</p>
<p>No. 70</p> 	<p>①3校の3つの輪(和)を組み立てたもので、外に(先に)広がる思いを含めている。また、緑の大地が広がり、その中心に(中学校)があるという意味を込めた。</p> <p>②新しい学校への想いが感じられるとともに、シンプルなデザインでよい。3区の自然豊かな風景を連想できるデザインである。</p>

※ 第4回校名・校歌・校章部会において、補作を依頼する優先順位を①No. 68、②No. 39、③No. 70、④No. 42 とすることを決定。

★校歌の作詞者と意見交換を行いました

第5回校名・校歌・校章部会では、作詞者の渡邊浩一氏をお招きし、校歌の構成や歌詞のフレーズなど、渡邊氏の作詞に対する想いを基に意見交換を行いました。この意見交換で出された意見や要望等を参考に、引き続き渡邊氏から作詞を進めていただき、7月をめどに作詞が完成する予定です。

【渡邊氏の主な意見】

- ・東頸中学校の卒業生が、この地域の未来を担う中核的な存在になるという前提で、歌詞は、自分たちの「ふる里」の悠久の歩みに学び・感謝し、今を創り、永久につなぐ、「ふる里賛歌的」な愛郷心に満ちたものを考えている。一般的な流麗な七五調ではなく、散文詩調的なものとしたい。地域の歴史や願いを反映すべきと考える。

【委員からの主な意見】

- ・「ふる里」はどこか遠くに離れたときに認識するものだと思っており、どこか遠くに行く前提に感じてしまうが、「郷土」はずっと住み続けていても認識するものだと感じるため、辞書的な意味で「ふる里」と同義である「郷土」としてはどうか。
- ・「ふる里を創る」ではなく、「郷土をつなぐ」などとし、生徒自身が縄文からの歴史を今後もつないでいくピースであると認識してもらおう歌詞にしてはどうか。
- ・最後のフレーズ「われらの東頸中学校」は、「の」や「が」を入れずに、「われら 東頸中学校」と表記した方が、東頸中学校が自分たちの学校であることなど、各々が多様な意味として捉えられるのでよいのではないか。
- ・この地域に位置していること、環境、歴史風土、自然を大事にする願いも込められており、全体的に賛成である。
- ・地域の校歌の歌詞には菱ヶ岳が頻出するが、今の子どもたちは遠足で菱ヶ岳に登っていないため、子どもたちの身の回りの環境にマッチしていないと、校歌が忘れられてしまう可能性があると感じた。
- ・1番は地域に関する歌詞、2番は地域の想いや願いを込めた歌詞とし、2番では子どもたちが期待されていることが感じられるフレーズであれば、子どもたちにとってもよい。
- ・七五調ではなく散文詩調的とのことであるが、他の校歌の歌詞を見ると、七五調のほうが覚えやすいと思うため、七五調で2番くらいまであった方がよいのではないか。
- ・自然は美化されがちだが、時に荒々しく厳しい自然と先人は戦いながら、知恵や技術を身に付けて自然の恵みを味方にもすることもあったと想像する。先人の生き方は、現代の我々の道しるべや指針になるものではないかと感じた。
- ・作詞案の中に地域の自然などが全て含まれていることなど、キーワードはすべて考慮の上で、我々が気付かないようなことまで歌詞に盛り込まれており、郷土愛にあふれた想いで先生は作詞されている。先生の思うように書いていただければありがたい。

<各部会について>

前号のたよりを配布した後に開催した部会の検討状況と、今後の予定を掲載しています。

- 校名・校歌・校章部会
5月31日 第5回部会
・作詞者との意見交換会
※第6回部会は6月26日に開催予定

- 通学部会
5月24日 第2回部会
・副部会長の選出
堀井 重忠 様 (浦川原区町内会長連絡協議会)
高橋 一文 様 (大島区町内会長協議会)
※部会長の南雲二郎様 (安塚区町内会長協議会) は変更なし
・各区における通学方法案の確認及び危険箇所の確認、情報共有
※第3回部会は、9月頃に開催予定

- PTA 部会
3月 9日 第5回部会
・制服等を変更することについて、保護者への報告の確認
・体操着に入れるロゴ及び名前についての検討
【決定事項】
上着にロゴと名前、ズボンに名前のみを入れます。
名前の刺繍の大きさは1.5 cm角とし、色はシルバーとします。
ズボンについては、左の腰骨あたりに名前を入れます。
上着は背中の中首元にロゴを入れ、左胸に名前を入れます。
半袖は左胸にロゴを入れ、その下に名前を入れます。

5月17日 第6回部会
・副部会長の選出
津幡亜紀子 様 (安塚中学校 PTA)
丸山 圭太 様 (大島中学校 PTA) 【体操着のロゴの見本】
※部会長の松野幸博様 (浦川原中学校 PTA) は変更なし
・制服及び体操着の検討
小学4年生以上の保護者と中学生の保護者を対象に実施した制服と体操着のデザイン決定に向けたアンケートの結果を参考に、制服と体操着のデザインを決定しました。
【決定事項】
＜制服＞
ブレザー … 紺色のデザイン
ズボン、スカート … 緑色を基調としたデザイン
＜体操着＞
長袖、長ズボン … 紺色に青いラインが入ったデザイン
半袖 … 紺色のデザイン
※第7回部会は7月11日に開催予定

TOKEI
J.H.S

【体操着のロゴの見本】



【制服と体操着の写真】